

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

(1) グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」では国内外の研究者と連携しながら格差問題を多面的に解明することに努めた。このために数多くの国際シンポジウムの開催、海外からの客員教員の招聘、英文叢書の刊行、若手研究者のための研究奨励費支給等を通じて、融合的研究を推進するとともに、教育面では世界で活躍するタフで独創的な人材育成を進めている。

(2) 大学院 GP「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」では最終年度にあたる平成 22 年度にふたつのコースに大学院前後期合わせて 45 名が登録した。公募による「院生プロジェクト」では「海外歴史資源教育研究事業」「歴史資源個別分析プロジェクト事業」として計 23 名を国内外に派遣した。教員主導の院生海外研修指導は仏、伊において実施され、遺跡発掘調査現場、美術館・博物館、研究所等で実習を行った。これに加えて文学研究科の歴史資源アーカイブのデータベース化を進めており、各専攻分野の成果を報告書として刊行した。地中海学会、西洋史研究会と大会を共催し、国際シンポジウムでは人類史上の転機である氷河時代終末期における文化変動について先端的な議論を行い、大学院生に対する地球的視野からの教育を試みた。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

(1) 我が国における日本思想史研究の第一人者、佐藤弘夫教授は、1987年刊行の日本中世における新仏教論の再構築の試みである『日本中世の国家と仏教』（吉川弘文館）を大方の要望に応じて復刊した。これは、同教授の研究の意義を改めて物語るものである。また、東西文化交流に関しても深い関心を寄せ、国内外において講演を行い、その成果を海外の学術雑誌にも公表している。

(2) ドイツ語による「リグ・ヴェーダ」翻訳出版の編者の一人であるインド学・仏教史の後藤敏文教授は引き続き同翻訳の編集に携わると共に、内外の学術共同研究に積極的に参加し、インダス文明の源流および神話に関する研究を公表している。また古インド-アリア形態論に関する英文の研究書“*Old Indo-Aryan morphology and its Indo-Iranian background*”を上梓し近々オーストリア学士院から出版予定である。

(3) 言語学の小泉政利准教授は、科学研究費補助金基盤研究(S)の予算措置をうけた研究プロジェクト「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」の代表者として、グアテマラの先住民の言語であるマヤ諸語の文処理過程について、現地のガマラ・マヤ言語アカデミーとの共同研究を主宰し、国際的な評価を得ている。

(4) 桐原健真助教が著書『吉田松陰の思想と行動』（東北大学出版会、2009年）によって第4回日本思想史学会奨励賞（2010年度）を受賞した。

(5) 上記以外にも、文学研究科の教員は多くの著作の刊行によって研究成果の社会還元を進めてきた。日本史・柳原教授『中世日本の周縁と東アジア』（吉川弘文館）、東洋日本美術史・泉教授『仏画の尊容表現』（中央公論美術出版）、国文学・佐藤伸宏教授『詩の在りか』（笠間書院）、同・佐倉教授『軍記物語の機構』（汲古書院）など平成 22 年度中に 17 冊の著書・訳書(共著・共訳を含む)を出版した。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

(1)文学研究科独自で、あるいは他部局や自治体との共催で、以下のような市民向けの講演会・講座等を実施し、数多くの市民の参加を得ている。①有備館講座第9期「人間」を科学する(宮城県大崎市岩出山 平成22年5月~9月)、②齋理蔵の講座3期「人間」の発掘(宮城県丸森町 平成22年5月~10月)。③市民オープンキャンパス「紅葉の賀」(東北大学植物園との共催 平成22年11月3日)。「古典文学に見る、萩の名所 宮城野の成り立ち」佐倉由泰(文学研究科教授)「ミヤギノハギの植物学的正体は…」大橋広好(東北大学名誉教授・元東北大学植物園長)と、ミヤギノハギに関する二本の公開講演の他、植物園を舞台にした俳句会や野点を行った。④みやぎ県民大学大学開放講座「人間理解の方法論2:世界・日本・仙台」(平成22年9月13日から9月18日まで6回)。⑤東北文化研究室公開講演会(平成22年7月10日)「心理学で解き明かす化粧の秘密」阿部恒之(文学研究科教授)と「王朝時代の美の価値観と中尊寺経」泉武夫(文学研究科教授)の講演があった。⑥東北大学103周年ホームカミングデーに際して行われた仙台セミナーにおき、作家の伊集院静、卒業生の平川新東北アジア研究センター教授とともに鈴木岩弓文学研究科教授が「生者と死者が出会う場所—霊地からみた東北の精神世界—」を講演し、パネルディスカッションを行った。

(2)「第4回青春のエッセー阿部次郎記念賞」を募集し、平成22年11月3日に「市民オープンキャンパス紅葉の賀」に合わせ、受賞者を発表、講評を行った。平成23年3月には同賞の入賞作品集を刊行し、6月には『思考的青春』と題して第1回から第3回までの中国語訳版が山東文藝出版社から刊行された。

(3)文学部・文学研究科では、学術交流協定を結ぶ海外の大学へ、毎年交換留学生を送り出している(平成22~23年度は7名)。留学中に取得した単位については、本人の申請に基づく審査を経て互換認定を行っている。

(4)グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」の一環として、平成20年度以来、シンガポール国立大学、韓国延世大学、カリフォルニア大学、台湾中央研究院民族学研究所、インドネシア大学、ウダヤナ大学などと国際シンポジウムを共催し、これらに教員と研究員を派遣している。また、スタンフォード大学との共催によるサマースクールを、平成22年夏に開催したが、引き続き平成23年度は冬にウィンタースクールとして開催予定である。

4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

(1)文学研究科教員は、国、地方公共団体、NPO、マスメディアなど外部機関に対して積極的に協力している。日本史・大藤教授、考古学・阿子島教授、東洋日本美術史・長岡教授、泉教授などが文化庁、宮城県、仙台市などにおいて文化財関連の多くの委員会委員を、社会学・長谷川教授は環境省、宮城県、仙台市などで地球温暖化やエネルギー問題関連の委員会委員を務めている。その他、心理学・阿部教授は国土交通省・名取川美化アドバイザー、国文学・佐藤伸宏教授は仙台文学館運営協議会会長、国語学・小林教授はKHB東日本放送「週刊ことばマガジン」監修・出演、美学西洋美術史・芳賀准教授は『大英博物館 ギリシヤ展—究極の身体、完全なる美』(展覧会カタログ)の監修、同尾崎教授はNHK教育放送「日曜美術館」の「フェルメール」などに出演し解説を務めた。

(2)心理学・阿部恒之教授は、平成23年8月、神戸で開催された国際犯罪学会第16回世界大会でのシンポジウム「災害と犯罪」に講演者として招かれ、その研究報告は多くのメディアによって報道され(産経新聞8月9日付、神戸新聞8月10日付など)、社会的注目を集めた。